

能楽研究 20巻 : 奥付

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

能楽研究 : 能楽研究所紀要

(巻 / Volume)

20

(開始ページ / Start Page)

214

(終了ページ / End Page)

214

(発行年 / Year)

1996-03-30

〔編集後記〕

第二十号をお届けする。巻頭の表所員の論文は前号に続くもので、十数年にわたって車屋謡本諸本を博搜し、徹底的な調査の上に立って進めている文字通りの新考。今回は主として野上本・田中東大本に関する考察で、全体で八回ほどの連載になる予定とのこと、長大な論考の完成も間近い。

片桐所員の論考は、戦前、森末義彰氏によって紹介された「富岡文書」について、諸記録の調査を通してその発給年次を再検討し、登載人物の整理を中心に同文書の能楽史料としての性格を考察したもので、同氏の久しぶりの論考である。

拙論は前号の続きで、能謡における同名異曲の多さを再認識しながら進めており、た行を終えたところである。

平成七年度国内研究員として当研究所に留学中の大谷女子大学助教授小林健二氏が表章教授の大学院演習にも出席され、進んで玉稿を寄せて下さった。まとまった最古の演能記録として著名な『貞和五年春日社臨時祭次第』はよく引用されるが、小林氏は新資料を提示しつつ、翻刻本文の批判と、そこから提起される諸問題、とくに斑足太子の猿楽の内容について興味深い論考を展開している。

徐々に遅れを取り戻しつつある研究展望は、平成四年を岩崎所員が担当した。能楽関係の刊行物や論考を整理しながら、近年の研究動向にも目を向けている。なお当初予定していた表所員担当の平成五年分は都合で次号送りとなった。能界展望は西野が担当し平成六年分を載せた。記録を主体としたも

ので、繁簡よろしきを得ないが、お許しいただきたい。

その能界展望でも記したが、平成六年は研究界にとって計報が続いた。創立以来所員(兼任)として尽くされた古川久氏もそのお一人。古川先生への追悼文を表所員にお願いした。

戦後五十年にあたる昨年の夏、大学院と共催で第一回「法政大学能楽セミナー・能楽戦後五十年」を開催した。受講者六〇名の予定が二二〇名を超える盛況で、あらためて講師の諸先生と関係各位にお礼申し上げます。なお西野は一九九六年度法政大学在外研究員として四月から一年間、ヨーロッパに留学する。なにかとご迷惑をおかけすることと思われるが、よろしくお願い申し上げます。

(西野春雄)

一九九六年三月二十日 発行

能 楽 研 究 第二十号

102 東京都千代田区富士見二一七七一
〇三三三六四九八一五、三三三三三六七一七
(FAX) 〇三三三三六四九六〇七

編集兼 野上
発行者 記念 法政大学能楽研究所

所長 片 桐 登

印刷所 三和印刷株式会社
長野市川中島町一八三二一